

続

お医者さんも

知らない

治療法  
教えます

こんな病気も治る！

●医療ジャーナリスト

田辺 功

ISAO TANABE

あきらめない！

- 心臓移植患者が「和温療法」で次々と改善
- 心の病を科学的に治す「松澤式治療法」
- 骨髄ドレナージ法で関節を残し痛みを取る
- がんは切らずに「ピンポイント照射」
- 糖尿病を治す「糖質制限食」
- 糖尿病性の壊疽にウジムシ治療
- 亜鉛補充で褥瘡、舌痛症、皮膚症状が治る
- 体の不調を「かみ合わせ」で治す
- 首が原因の「パソコン病」は自分で治せる
- 腰痛を治す奇跡の手法「AKA博田法」
- 背骨の痛みには「経皮的椎体形成術」
- 関節リウマチに「ステロイド関節内注射」
- 鍼灸治療で逆子の位置を安全に治す
- 新型インフルエンザも漢方で治る

治せる  
名医を  
紹介！

西村書店

## 統合医療

「漢方」の意味を聞いてみた。「オランダ医学『蘭方』<sup>らんぽう</sup>」に対し、それまでの日本の伝統医学のこ  
と。そこで使われる薬が漢方薬。江戸末期から使われ始めた言葉です」と日本薬科大学の丁宗鉄<sup>ていむねつ</sup>教  
授（統合医療学）は答えてくれた。

漢方は患者の体質（証）<sup>しょう</sup>を考えて薬を出す。病名で一律に出すのは、本当は漢方ではない。

漢方薬は生薬を一定の理論で組み合わせる。生薬は漢方だけでなく、中医学をはじめ各国の伝統  
医療や、民間医療にも使われている。米国のサプリメントは民間医療に使われる民間薬だ。薬と認  
めるかどうかは国ごとに違うが、健康食品やお酒やお茶、ただ  
の食品としても売られる。これらをみんな漢方薬と思っ  
ている人も少なくない。



丁宗鉄さん

「西洋医学に限界がある」として、民間医療も組み合わせた統  
合医療が欧米で注目を集めている。丁さんは「古典に執着して  
いては発展はない。新しいものも取り入れ、一番すぐれた漢方

の考えを基本に、統合医療をめざすべきだ」と考える。

「未病」<sup>みびょう</sup>治療も漢方の特色だ。はつきりした病気になる前に、あるいは病気のごく初期に、生体  
のバランスを回復したり、免疫力を高めたりする。「がん患者はなぜ十全大補湯を飲まないのだろ  
うか」と、慶応義塾大学の渡辺賢治<sup>わたなべけんじ</sup>・助教（東洋医学）は言う。

再発を恐れる患者さんは月何万円もの高いお金を払い、さまざまな健康食品を買う。宣伝こそす  
ごいが、これらは品質も玉石混濁<sup>ごんじゆく</sup>、効果も科学的に検証されていないものが多い。十全大補湯は確  
実に免疫力を高めるし、はるかに安い。「医師自身が漢方薬をよく知らないから、患者さんに勧め  
ることができません。国民はもつと漢方薬を求めてほしい。そうすれば、医師が漢方を勉強するよ  
うになります」



渡辺賢治さん

統合医療から日本で日本の漢方薬への関心が世界的に高まっている。渡辺さんは二〇〇四年秋か  
ら同僚のG・プロトニコフ訪問助教らミネソタ大学グループと一緒に、米国で桂枝茯苓丸<sup>けいしふくりやうがん</sup>エキ  
ス剤（国産）の臨床試験を始めた。一八〇人を対象に、二重目  
隠し試験で更年期障害のほてり治療をする。「漢方薬もいずれ  
国際商品になります。うかうかしていると、成果を欧米の研究  
者や企業に取られてしまうかもしれません」と、渡辺さんは心  
配する。

北里研究所東洋医学総合研究所の花輪寿彦<sup>はなわしほしひこ</sup>所長は「証や漢方

のは避けられない。

いまは

渡辺賢治さん↓慶応義塾大学病院漢方医学センター長、准教授、G・プロトニコフさん↓帰国し、米国アライナ病院研究部長、北里研究所↓北里研究所北里大学

●診療を受けるには●

慶応義塾大学病院漢方医学センター  
〒160-8582 東京都新宿区信濃町35  
☎03-3353-1211  
HP <http://www.keio-kampo.jp/>

北里研究所北里大学東洋医学総合研究所  
〒108-8642 東京都港区白金5-9-1  
☎03-3444-6161  
HP <http://www.kitasato-u.ac.jp/toui-ken/>

くわしく知るには

日本薬科大学漢方薬学科  
〒362-0806 埼玉県北足立郡伊奈町小室10281  
☎048-721-1155  
HP <http://www.nihonyakka.jp/>

の伝統を忘れない使い方」の重要性を強調する。漢方薬が広がるのはいいが小柴胡湯の時と同様、証が軽視されがちになる。たとえば、腹部手術後のイレウス（腸閉塞）防止目的の大建中湯などで、そのような懸念が広がっている。

漢方薬はもともとは煎じ薬や、生薬を細かくした散剤や丸薬だった。今は扱いやすさや安定性から煎じ薬を粉末にしたエキス剤が主流だ。「大切な香り成分が生かされないなど、エキス剤は効果が不十分なことが多い」と花輪さんは指摘する。

漢方薬の業界では、中国産生薬の残留農薬が頭痛のタネになっている。今は企業や病院任せで厚生労働省の検査や規制はごく一部だが、患者に安全な漢方薬をめざし、どんどん厳しい目が向けられるようになる